

第4回 茅ヶ崎海岸グランドプラン推進会議の概要

1 日時	平成 18 年 5 月 20 日（土）18:00～21:20
2 場所	茅ヶ崎市役所分庁舎 D 会議室
3 出席委員	荒井三七雄、岩本えり子、折原清、片岡弘、大坊裕、新谷雅之、益永律子 水沼淑子、山口洋一郎、山本泰然
4 傍聴人数	11 名
5 市出席者	市企画調整課長、課長補佐、担当者、コンサルタント
6 次 第	1) 茅ヶ崎海岸グランドプラン推進会議の皆様へのお願い 2) 計画コンセプト、まちづくりの目標、将来像について 3) ゾーニング、導入機能、空間形成イメージ、空間ボリュームについて 4) B 地区事業推進チームへ提出する資料について 5) その他
7 会議の概要	<p>■決定事項</p> <p>1. 茅ヶ崎海岸の将来像</p> <p>◇ a)「市民の庭」、b)「自然環境・景観の継承」、c)「ユニバーサルデザインと環境との共生」、e)「空と海のミュージアム」の将来像について承認された。</p> <p>◇ 各将来像の説明文については再度内容を検討する。</p> <p>◇ d)「産業起こしとアメニティ」については、言い回しを再検討する。</p> <p>2. 理念（コンセプト）及びゾーニング図の検討について</p> <p>◇ ゾーニングの議論については次回の推進会議で行う。</p> <p>◇ 理念及びゾーニング図については、各推進会議委員が案を作成し、6月1日（木）迄に市へ提示する。</p> <p>3. 次回推進会議の開催について</p> <p>◇ 6月3日は中止し、6月10日、17日に推進会議を開催する。また、24日を予備日とする。</p> <p>■確認事項</p> <p>1. グランドプラン推進会議の当面の作業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当面、6月末、9月末、12月末の3つの段階を節目として進んでいく。 ・ 6月末は、茅ヶ崎海岸の理念、将来像、ゾーニングを決める。また、当面の地域づくりのルールとしてのB地区における用途と空間ボリュームについてある程度の方角を決める。 ・ 第2ステージについては、具体的な方策、課題が出てくると思うのでそれをどう解決していくかという議論に入る。 ・ この推進会議の12人の方たちも自分の理想とするものをここに持って参加されている。こういう状況の中でスケジュールを念頭に置きながら

良い方向で合意をしていきたい。

- ・ 「グランドプラン推進会議、グランドプランの合意ならず」という状況になった時に何がどう動くかわからないという怖さを感じている。だから妥協するということでは決して無く茅ヶ崎海岸が目指す崇高な将来像を明確に打ち出しながらも当面のB地区をどうしていくかというあたりを共有化していきたい。
2. 市HPへの資料掲載について
- ・ 今後、推進会議において提示された資料の市HPへの掲載については、著作権等を踏まえ推進会議において掲載の可否を確認し問題が無ければHPへ掲載する。
 - ・ 第4回推進会議の掲載資料は、資料2及び資料4。
 - ・ 既に掲載済みの「空間ボリューム図（第3回指針会議資料）」はHPより削除する。
 - ・ なお、第1回～第3回推進会議資料でHPに掲載するものについては各作成者へ掲載の可否を確認し、了解を得た資料についてはあらためて市HPへ掲載する。
3. B地区推進チーム会議への対応
- ・ 茅ヶ崎海岸グランドプラン（基本理念、将来像、土地利用ゾーニング）（資料4）については、現時点では検討中ということでB地区推進チーム会議資料として提示する。

■宿題への回答

1. 漁港西側の駐車場の管理とその経過

西側も含めて漁港と一体として漁港振興整備を図るという位置付けになっている。管理者は茅ヶ崎市。あの場所は戦前より漁業者が地引網や網干し場の用地として使用していた経過があり、漁業協同組合で管理している。

2. 釣り宿、遊漁船の利用状況、漁獲高について

海浜課で取りまとめている「遊漁船利用状況調査」（毎年調査）というのがあり、平成16年度の調査によると年間48,200人程度の利用がある。

3. 魚が捕れない原因あるいは漁獲量が減っている状況について

平成9、10年の年間1,000tの属人陸揚量は、茅ヶ崎以外の漁業協同組合員と共同で定置網の経営に参加していたため。属人陸揚量であるから、茅ヶ崎の漁業共同組合員の陸揚量としてカウントされたもの。実際に茅ヶ崎の港に陸揚げされた量ではなく共同で揚がったもののうち茅ヶ崎の組合員の量ということ。

定置網については、茅ヶ崎においては昭和58年頃まで定置網の漁業があった。しかし、過酷な労働に見合うだけの収入が見込めないという状況からその後は行われていない。

	<p>水揚げ量については年間 100 t 前後で推移しているということで魚が捕れないということを当事者たちは思っていない。</p> <p>茅ヶ崎の漁業の現状は、遊魚、観光地引網、網元料理店の経営によって生計を維持している。</p>
--	---